

平成30年度「みえの現場 “やっぱし” すごいやんかトーク」(亀山市)の概要

平成30年9月2日(日)東野公園体育館(亀山市)で「みえの現場 “やっぱし” すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「魚と子どものネットワーク」の皆さんの活動拠点である亀山里山公園「みちくさ」の見学をした後、活動への思いや今後の課題などについてお話を伺いました。



自己紹介、団体の活動概要の紹介の後、知事とフリートークを行いました。

【参加者からの発言】

Q 活動を通じてよかったこと、嬉しかったことなどを聞かせてください。

(川原実結さん) ヤリタナゴの保全活動をしている中で、初めて「魚の絶滅」ということを身近に感じ、「本当に守らないといけない」と実感したので、魚の研究をしようと思いました。滋賀県で行われた魚類自然史研究会に参加し、魚の研究に携わっている方々の話を聞くことで、やはり私もその道へ進みたいと改めて強く思い、自分の進路が定まりました。

(川原深祈さん) 亀山の昔の自然について、自分だけでは知ることができないことを地元の方にたくさん教えてもらいながら、貴重な経験ができることが活動の良さだと思います。池干しなど、普通に生活しているだけでは体験できないことがたくさん経験でき、知識も増えます。

(堤光さん) 里山塾などで、小さな子どもが魚を見て、嬉しいとか面白いと言ってくれる時や、「これは何という魚なの?」「どういうところにいるの?」と疑問を持ってくれた時はすごく嬉しいです。自分も子どもの頃、そのような体験があって環境に興味を持ったので、小さな子どもたちが同じような体験をしているのを見ると嬉しいです。一つのことだけを捉えて全てのことを知ることはできないので、自分でもっと広く深く知りたいと思い、この活動を続けてきました。

(須川幸弘さん) 学生が子どもたちに説明している光景を見て、子どもたちに話すのは、同じ世代で言語や感覚が似ている若い世代が行うほうが、よりしっかり伝わると思いました。聞いている子どもたちが輝いています。



(小林輝彦さん) 池干しをすることで、元々亀山に生息していた今では希少種となったヤリタナゴやカワバタモロコが実際に増えていった事実を体験できたことが、この活動に参加して良かったと思うことです。池干しは、何年か続けていると、子どもより大人の方が本格的に熱が入ってきたりします。子どもが親に影響を与えていることを実感し、続けていて良かったと思います。

(石川友裕さん) 少しでも自然に興味をもってもらい、自然の大切さを次世代につなげていくことが重要で、地味な活動でも一つひとつ種を蒔いていくことが大切だと思います。子どもの頃の経験は大人になっても消えないものだと思いますので、活動を通じて、一人でも多くの子どもたちに自然と親しむ経験をしてもらい、その子が親となった時、自分の子どもに自分の経験を伝えていってもらえれば、自然環境保護につながっていくと思っています。

(峯和也さん) 一番嬉しいのは、自分たちや先輩方の活動により、亀山市内のヤリタナゴの絶滅を防ぎ、現時点でもまだヤリタナゴが市内に生息しているということです。そして、川原さんのように、活動を通じて魚の研究者になりたいとってくれるような人材が育ったということも、とても嬉しいことです。

(新玉拓也さん) ホームページを見て活動に参加したいと連絡をいただいたり、企業から家族向けの観察会の依頼があったりと、活動の仲間が増え、活動の幅が広がることはとても嬉しいです。愛知県のNPOの方から「スリランカで一緒に魚の保全をしませんか」と、お声がけいただいたりということもありました。

Q 今後の夢や課題について教えてください。

(川原深祈さん) 活動の中でヤリタナゴなど、絶滅しそうなものを復活させていくということに力を入れ、活動に積極的に参加していきたいと思っています。

(川原実結さん) 小・中学生が、いつかは自分たちのように教える立場になってくれて、少しでもそういう人が増えるといいなと思います。

(石川友裕さん) 活動に参加している学生は、進学などで県外へ行ってしまっても多く、メンバーを着実に増やしていくことが課題の一つだと思います。そのために、若い世代に興味をもってもらえることを目標にしながら活動を続けていきたいです。

【知事の発言】

○皆さんが環境に興味を持ち、本当に魚が好きで活動を継続していることがよく伝わりました。このように若い世代のメンバーが頑張ってくれていることを、大変嬉しく思います。

○子どもをきっかけに大人が本気になるというお話がありましたが、親世代の私たちも、このような活動をもっと知り、もっと自覚をもって、生物多様性や環境を守っていく当事者なんだということ、しっかりと学んでいく必要があると改めて感じました。



「魚と子どものネットワーク」は、魚が棲めるような水環境を守り、生き物や自然のすばらしさを次世代に伝えていく活動をしています。

定期的に子どもたちへの自然観察会や、企業と連携した環境イベントなどを行い、地域の人々をつなぎながら幅広く水辺の環境保全を行っています。